

Vol.193



かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

発行責任者 病院長 松本 健

先生
おたずねします

虚血性心疾患について

内科医長
中川 貴文

生活習慣の欧米化に伴い狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患が年々増えております。これらの虚血性心疾患は、動脈硬化が原因で起こります。動脈硬化の危険因子には高血圧症、脂質異常症、糖尿病、たばこなどがあります。

Q 心臓病といえば、急に起こる、怖いといったイメージがあります。心筋梗塞、狭心症はどんな病気ですか。

A 心臓は1日に約10万回、生涯休みなく拍動するポンプで、このポンプを動かすエネルギー源が「冠動脈（冠状動脈）」です。冠動脈が心筋の細胞に栄養をあたえているため、心臓は動いています。年齢を重ねるにつれ、この冠動脈の血管壁にコレステロールがたまり、動脈硬化が進み、血管の内側が狭くなります。血流が不十分になるほど狭くなると、心臓を動かす血液が不足する「心筋虚血」になってしまいます。虚血状態になると、心臓から発するSOS信号として、胸の圧迫感を感じるようになります。これが狭心症です。冠動脈がさらに狭くなって「完全に詰まってしまう」状態になると、その部分の心筋細胞が壊死します。この状態を急性心筋梗塞症と呼びます。よく「虚血性心臓疾患」といいますが、これは狭心症と心筋梗塞症をまとめた呼び名です。

Q 心筋梗塞、狭心症はどうやって診断をしますか。

A 主に症状・心電図・血液検査から診断します。場合によっては冠動脈造影検査も必要になります。カテーテルと呼ばれる細いビニールチューブ（太さ1ミリぐらいの柔らかいチューブ）を手足の動脈から心臓の血管内へ送り込み、これを通じて造影剤を血管内に注入、冠動脈を撮影するものです。この検査は虚血性心疾患の診断だけでなく「風船療法」にも使います。「風船療法」は冠動脈の狭くなった部分や閉塞した部分に、先端に風船（バルーン）を取りつけたビニールチューブを入れてふくらませ、冠動脈を広げる治療です。この方法は「バルーンによる冠動脈形成術」と呼ばれています。また、この検査は冠動脈の詰まった部分に「バイパス」（新しい血行路）を作る手術の「冠動脈バイパス術」の際にも必要です。

問い合わせ先 内科受付

外線 078-672-2619

内線 8-63-22619

新任医師ご紹介

健康管理G（内科）
吉田 公久専門分野：循環器内科
趣味・特技：ランニング、
スキー、音楽鑑賞

これからの抱負：はじめまして。健康管理G産業医として勤務いたします。皆様の健康維持のため、努力致しますので、宜しくお願い致します。

お知らせ

8月は第2（10日）・第4（24日）土曜日の他に、**14日（水）**・**15日（木）**が半日開院日となります。予め、ご了承願います。

8月 ■ : 休日 ■ : 半日開院日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31